

日本史 出題の意図

問題 I

古代から中世における、いわゆる「辺境」の諸問題について、理解できているかどうかを問うものである。

- 問 1 続縄文文化・擦文文化という、土器の名称から付された時代名とともに、狩猟採集を基盤とした社会であったことを理解できているかどうかを問うものである。
- 問 2 螺鈿という工芸品の製作技法について理解できているかどうかを問うものである。
- 問 3 十三湊が日本海交易における要衝に立地していたこと、及び現在の北海道からコンブ・サケなどの水産物が、中国からは陶磁器などがもたらされていたということを理解できているかどうかを問うものである。
- 問 4 史料を読んで、九州地方南部では、八世紀はじめの段階で、律令国家は戸籍を作成して民衆支配を行うことを目指したが、班田収授は行うことができなかったということを理解できるかどうかを問うものである。
- 問 5 柵戸について理解できているかどうかを問うものである。
- 問 6 律令国家が、帰順した蝦夷を郡司に任ずるなど優遇して服属させていたことを理解できているかどうかを問うものである。

問題Ⅱ

日本中世社会を支配した軍事政権である鎌倉幕府、室町幕府に関する基礎的理解を問うものである。

問1 保元・平治の乱の経緯に関する知識を問うものである。

問2 (1) 吾妻鏡に関する知識を問うものである。

(2) 鎌倉幕府の御家人制度に関する知識および考察力を問うものである。

問3 室町幕府の軍事動員に関する史料読解力を問うものである。

問4 (1) 著名な史料である倭寇図巻に関する知識を問うものである。

(2) 日明勘合貿易と倭寇取り締まりとの連動に関する理解を問うものである。

問題Ⅲ

教科書に載っていない事項（高札、高札場）を、教科書を通じて理解していることがらと与えられた文章・図を読み解くことを通じて解釈する力を試した。

高札場が日本橋のたもとや馬籠宿に掲げられたことを図や文章から読み取る。制札が幕府や明治維新政府など政治権力者が掲げたもので、それは利用者の運賃規定・宿泊料規定など民衆が守るべき内容であることが、文章中に引用された馬籠宿に掲げられた制札内容から推測する。また、幕府（維新政府）が伝えたいことがらは文章で示されたことも図や文章から読み取り、高札場の機能の前提には文字・文章を介しての意思疎通があったことを理解する。

以上を踏まえながら、高札場が交通の要所に設置されたことと関連する江戸時代の交通史（陸上交通・水上交通の特徴や民衆の旅）について、基礎知識を確認した。

問題IV

近現代の社会運動・社会問題について理解できているか問うものである。

問1 1918年の米騒動について理解できているか問うものである。

問2 原首相の普通選挙に対する姿勢について理解できているか問うものである。

問3 近代日本の社会問題について理解できているか問うものである。

問4 示されたグラフを読み取りつつ、戦後日本の経済状況や労働運動のあり方についての知識を問うものである。

問5 「本土復帰」までの沖縄をめぐる状況について、その時期に関する知識と資料の読解を総合し、そこから説明できる能力を問うものである。

問6 日米安全保障条約改定をめぐる政治や社会に関する状況について、その時期の歌の歌詞を参照しつつ、そこから説明できる能力を問うものである。